

4年間の「労働災害区分」の集計と予防対策の検討

【広島ビルメンテナンス協会の月報より】

有信ビル防災センター 山崎豊美

(1)「事故原因発生状況」の集計

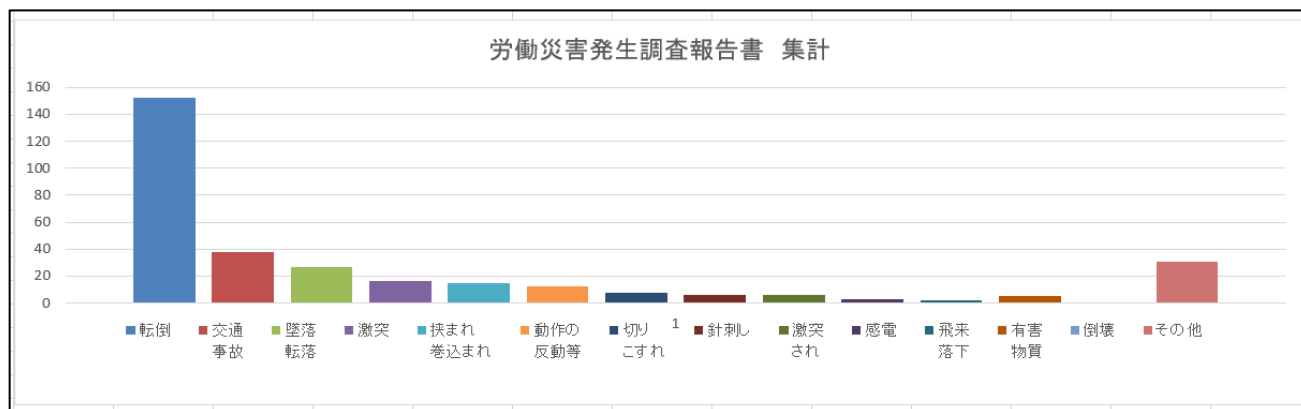
本社から「労働災害発生報告書」が毎月届き、事故の原因と発生状況、及び改善策が詳細に報告され、分かりやすいです。

一方この文書は単月の詳細報告書のため、期間中にわたる件数は分かりません。

そこで文書の上部にある14項目の件数を、2020年から約4年間にわたって集計して、事故が最も多い区分に対して対策を考える事にしました。(添付)

下記が合計部です。区分件数の多い物から順に、左から右に並べてあります。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
転倒	交通事故	墜落 転落	激突	挟まれ 巻込まれ	動作の 反動等	切り こすれ	針刺し	激突 され	感電	飛来 落下	有害 物質	倒壊	その他
152	38	27	16	15	12	8	6	6	3	2	5	0	31
47.4%	11.8%	8.4%	5.0%	4.7%	3.7%	2.5%	1.9%	1.9%	0.9%	0.6%	1.6%	0.0%	9.7%



「14区分の件数合計」は321件で、そのうち転倒が152件あります。

転倒は全体件数の47%を占め、群を抜いています。

この結果から、転倒が対策を考える上で最優先事項であると思います。

インターネットで調べたところ、転倒災害は「厚生労働省」や「中央労働災害防止協会」など、関連する団体が転倒災害防止に向けて情報発信を行っています。

内容を見ると、転倒災害は多くの現場で問題となっています。

厚生労働省では、転倒災害説明用のパワーポイントも公開されており、このデータを活用すれば転倒防止の説明が容易になるように準備が整っています。

その中で目にとまったのが転倒災害は「滑り つまづき 踏み外し」に三分類される、という事です。これはぜひ覚えてほしいフレーズです。

(2) 予防対策の検討

① 全体対策:

転倒防止については「整理」「整頓」「清掃」「清潔」(4S)を行動面の柱にします。「4S」は総合的な安全基盤を作る方法であると考えています。

有信ビル防災センターは、清掃を開館後30分間行っていて、「4S」については一定の水準にあると思います。これに加えて清掃時に転倒の原因となる「滑り つまづき踏み外し」が現場に存在するかどうかを確認して防止を行います。

② 要点对策:

ビル内を転倒の視点で検討しました。

- 1, 1階から地階に降りる22段の長い階段 (踏外し転落に注意する)
- 2, 地階の床と湧水槽床の段差50Cm (踏外し転落に注意する)
- 3, 立体駐車場内部の足場不良 (清掃時の転倒、金属との衝突に注意する)

③ 広報対策:

危険防止のためには、気付いた事を皆に知らせる必要があります。

警備員は全員が参加する定期的な教育が行われますが、その中で転倒問題を取り上げ、全員に直接伝えることは効果的です。警備課長に別紙の集計表を根拠に、次回の警備員教育に転倒災害を取り入れてもらう提案を行っています。

他、すぐ出来る方法で、「ハツとなる前に 防ごう 転倒災害」という文書のリーフレットがありました。これをコピーして「防災センター」と「清掃控室」に掲示しました。

(3) 私の身近で起きた転倒事例

■「滑り」:

ワックスがけした緩いスロープで滑って転倒された。

(滑りやすい靴底の可能性がありますが)

■「つまづき」:

チェーンを跨いで中に入ろうとしたが、足が引っかかり転倒。

(50歳なかばの年齢のためか足が上がらなかった)

■「踏み外し」:

階段で足を踏み外され転落。額から出血し救急車で運ばれた。

(踊り場を後向でモップをかけていて、階段で足を踏み外され転落)

■「踏み外し」:

歩道と車道の段差部分で踏み外され足首を亀裂骨折。

(他の事に気を取られ注意を欠いた)

心理学では他人に災いが起きても、自分に都合の悪い事は軽視する「正常化バイアス」という傾向があるそうです。しかし実際は自分にいつ降りかかるか分かりません。

転倒は高齢者問題でもあります。私自身74歳で体力の低下に伴い、よろめきの危なさが増えました。この度の論文作成は転倒について考える良い機会となりました。

ご一読ありがとうございました。